



共に生きる

プラム所長 大城 榮一

五輪のシンボルマークは、ヨーロッパ、アメリカ、アフリカ、アジア、オセアニアの五大大陸を表し、五輪のつながりは連帯を。いよいよ今年2020年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。伊豆市でも、国際標準の木製トラックを配した「ベロドローム」を中心に、自転車競技が行われます。

五輪のシンボルマークは更に五つの色を持ち、赤は火、青は水、緑は木、黒は土、黄色は砂という自然現象を、また、情熱、水分、体力、技術、栄養のスポーツの五大鉄則をも表しています。

令和二年元旦、静岡新聞第三部の一面では、この五色の色に因んだ福産品（授産品）を紹介する特集が組まれました。緑に因んだ福産品として、プラムで制作している「わさび染めシルクストール」が選ばれ掲載されました。更に表紙を飾る大きな写真には、プラムで働く利用者が登場。十二支の始まり「子年」、2020年という節目の年にふさわしい、幸先のいいスタートとなりました。静岡新聞の特集のタイトルは「共に生きる」。最近のメディアでは、

パラリンピック選手も、オリンピック選手と同じように登場するようになりました。社会が障がいを持つ人を受け入れつつあることを実感する反面、相模原市のような痛ましい事件も起きています。「障がいは個性だ」という言葉をよく耳にします。私の大好きな金子みすゞの「私と小鳥と鈴と」の詩の中にも、「みんなちがって、みんないい」という一節があります。障がいのある人の個性は様々であり、障がい者支援の奥の深さを日々実感しています。

私たち支援者は、障がい者の「個性」から生まれる可能性を引き出し、社会の一員であると実感してもらうことが使命。そして、たくましく生き抜いていけるよう彼らの人生をも愛す。

誰一人、取り残されない共生社会というビジョンを描きながら、プラムのテーマ、「共に喜び、共に考え、共に生きる」をいつも心に刻み、明るい未来を目指したいと思います。

令和という新しい時代が、私たちがめざす共生社会実現の時代となるよう願います。

令和2年度

社会福祉法人 春風会 事業経営方針

～地域福祉の推進と
社会貢献活動事業の展開～



社会福祉法人は、人口減少化

社会の中で民間企業との激しい競争の中に置かれており、民間企業と同様に先駆的・独創的な発想を取ることが求められています。同時に、非営利法人として公共性・公益性という本質を遵守し、地域福祉の推進と社会貢献活動の事業を積極的に展開していくことが重要な使命と言えます。

新たな事業展開の模索

春風会は、平成二十六年度からプレーゲあしたか、プレーゲおおひと、伊豆市月ヶ瀬の複合施設ふらつと月ヶ瀬、あまぎ認定こども園、なかいず認定こども園など、保育施設や複合施設、地域密着型介護福祉施設などの施設整備をしてきました。今後は、医療ニーズの高い障害者の方の支援施設や社会福祉法人が行う第二種事業の無料定額診療事業を行う診療所の設置に向けての検討会を立ち上げていくと共に、現在ある障害者の就労支

援施設や救護施設の沼津市立高

尾園などでは、これまでの福祉の枠にとらわれずに農業と福祉、他の産業と福祉の連携などの新しい福祉を創造し、従来の福祉の壁を越えていきたいと考えています。実際に農福連携を行う社会福祉法人は全国にあります。春風会でも前向きに検討を進めていきたいと思えます。

子育て世代・年金世代への支援プロジェクト

子育て支援事業については、伊豆市の二つの認定こども園でも、例えば英語教育を行うなどの特色ある・若い母親世代に魅力あるこども園への取り組みをしていきたいと思えます。更に育児休暇から復職を目指す子育て中の職員について、年度途中での保育園への入園が難しく、思うように復職が叶わないという声を耳にします。働きやすい職場環境の整備に向け、経済的な支援策だけではなく、職員の子育て支援対策として企業内保育所の整備についても検討を進

めていきたいと思えます。

法人はこれからも、子どもから若い世代、障害者、高齢者まで、世代と障害を超えて、共に支え合う施設作りを、コミュニケーション作りをしていく方針です。今年度も、春風会の保育・介護・福祉のブランド力を更に高め、地域からの信頼と期待に応えていき、春風会で働く職員一人ひとりが輝き、誇りと歓びと信念と自信、感謝の心を持って働くことが出来る法人を目指して、その事が利用者に対するより良いサービスの提供に繋がります。地域の福祉の向上にも繋がっていくと考えます。

法人専門部会

総務、企画財務（企画事業）、研修
福利厚生、障がい者（以上、5部会）

法人部門別委員会

施設相談員、介護、看護、栄養・調理
施設ケアマネ、短期入所、通所介護
訪問介護、事務、居宅、包括、障がい者
機能訓練、小規模多機能（以上、14委員会）

令和2年度 社会福祉法人春風会 事業経営基本方針

① 利用者の人格を尊重し、職員の助け合う心と創意工夫の発揮、信頼される施設づくり

- (1) 利用者一人ひとりの人格を尊重した常に質の高い介護サービスを提供し、職員一人ひとりが創意工夫を発揮すること。
- (2) 法人の全職員から業務改善、新しい事業企画、職場環境改善、福利厚生アイデアなどを募集し、職員の英知を結集する。

② 職員の研修教育・キャリアアップ制度の充実、資格取得への支援と福利厚生の推進

- (1) 新人職員・中堅職員・入社3年目職員・リーダー職員・幹部職員の研修体制の充実・強化。
- (2) 介護職員実務者研修・ケアマネジャー・社会福祉士などの資格取得への支援制度、職員紹介手当制度・奨学金返済補助制度の継続実施をする。
- (3) リフレッシュ休暇や連続休暇取得への実施策の検討、脳ドック・人間ドックなどの健康管理への支援策を推進する。
- (4) 従来『高齢者ケアマニュアル』を『春風会ケアマニュアル』として改訂発行する。職員研修・育成及び高齢者・障害者支援に積極的に活用していく。

③ 健全で安全な経営と職員のモラル・マナー教育の推進

- (1) 研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし。自己資本をしっかり持ち、キャッシュフローの強い法人を目指す。社会の新しいニーズに応じて事業を展開するために拡大再生産を図っていく。
- (2) 法人の接遇委員会の充実・強化を図り、職員のモラルや接遇マナー教育を更に推進する。人権擁護・虐待防止への取り組みを進め、職員の人材育成に全力で取り組む。

④ 施設内委員会活動、科学的介護と穏やかな看取り介護の推進、栄養部門の改革、在宅事業の強化

- (1) 法人全体で科学的介護と穏やかな看取り介護の取り組みを推進する。法人施設が実践してきた看取り介護のマニュアル化・見える化を図り、福祉のターミナルケアを推進する。

⑤ 介護・保育・障害の福祉の魅力発信と福祉現場でのIT化の推進、生産性の向上を図る

- (1) 保育・介護記録の電子化、高齢者の見守りセンサーやベビーセンサーの活用、インカム無線機の導入など介護機器の積極的な導入を進め、介護ロボットの活用、福祉現場の情報化・IT化を法人の全施設で推進する。
- (2) 労働人口の急激な減少に伴い、福祉現場でも生産性の向上を推進することが求められている。限られた職員配置の下、いかに効率的・生産的に仕事を回すかを模索し、サービスの向上・質の向上を図っていく。

⑥ 法人職員の活性化と育成、65歳定年制と子育て支援・EPA等での人材確保対策

- (1) 結婚や出産等で一度退職した職員を現場に復帰できるように積極的な支援策を推進する。
- (2) 妊娠中の職員も安心して働け、出産して職場復帰できる職場環境、企業内保育所の整備を推進する。子育てをしている若い世代を大事にしていく。
- (3) EPAによる外国人介護職員の確保と並んで、外国人技能実習生の受け入れを推進し、5年後、10年後に備えて外国人介護職員の確保と育成に努める。

EPA介護福祉士候補生入社式 海外からの仲間たちを迎えて



春風会では令和1年12月18日に5名の経済連携協定（EPA）介護福祉士候補生の入社式を行いました。5名は国内の日本語研修センターでの6か月に及ぶ研修を終え、晴れて法人職員の仲間入りとなりました。5名はそれぞれの配属先施設にて4年後の介護福祉士国家資格の取得に向け、頑張ってください。

春風会は彼ら彼女らのライセンス取得に向け、しっかりとサポート体制を築き支援して参ります。

EPA職員 紹介コーナー



好きなことは
バドミントンです！
富士登山をしてみたいです！

氏名 リスカ セプティアニ
出身国 インドネシア
配属先 みはるの丘浮島



趣味は写真撮影。
おしゃべりが好きな
ので多くの利用者
さんとお話したいです。

氏名 ニニオマン リットリアニ
出身国 インドネシア
配属先 みはるの丘浮島



日本語の勉強と
仕事を頑張ります！

氏名 ラウレタ デシデリオ クアレスマ
出身国 フィリピン
配属先 あしたかホーム



好きなことは、
バドミントン・料理作り・お花の世話です！

氏名 プトゥリ リスキ ウィディアサリ
出身国 インドネシア
配属先 プレーグおおひと



国家試験に合格し、
永く日本に住みたいです！

氏名 ヘマヤンティ マニク
出身国 インドネシア
配属先 プレーグおおひと



外国人介護士を雇用する制度は、EPA、技能実習、特定技能、留学など様々なものがあります。そのうちの一つに大学インターンシップ制度を利用する方法があり、春風会ではベトナム、ダナン市にあるドンア大学と受入れ契約を締結しました。同時に静岡県内では、四法人が契約を結び、順次生徒の受け入れを行って行く予定です。ドンア大学は、生徒数が一万人を超す大きな大学で看護学科は、1200名と人気の学科です。

インターンシップとは、就業体験を意味し、学生は大学在学中に一年未満日本の施設で研修しながら勤務して卒業に必要な単位修得を目指します。入国の際は日本語検定N4に受かる事が求められています。一年弱日本で研修し、母国に戻り卒業です。卒業後、特定技能制度等で再来日が可能です。静岡に来てからは、末永く



働いてもらうために、四法人が来日している方々に、年間通じて定期的に悩みや仕事の相談又楽しみを共有する場が出来るようにフォローを行っていきたいです。今回はドンア大学の中で日本に來たいと思つて、日本語を勉強している13名と面接を実施しました。結果春風会では、四名の学生を受け入れる事が決まりました。今年の六月から伊豆中央ケアセンター、ぬくもりの里にて勤務予定です。今後多様化する外国人雇用制度の特徴を理解し、又一つの制度に限定してしまうことなく、各施設、地域、事業にあった制度をうまく活用していきたいと考えています。



第三回静岡県優良介護事業所表彰を天城デイサービスセンターが「職場環境改善部門」において受賞いたしました。この表彰制度は介護人材の確保や介護サービスの質の向上に向け、介護職員が働きやすく、働きがいのある職場環境づくりや、利用者本位のサービス提供に積極的に取り組む静岡県内の介護事業所に対して県が表彰を行う制度です。この表彰には「職場環境改善部門」と「サービスの質向上部門」の二部門があり、それぞれ県内の三事業所が選ばれました。

表彰式は令和元年十一月五日に静岡市にある「しずぎんホール」で開催され、各事業所が取り組み内容を発表しました。天城デイサービスセンターは「利

用者・家族・地域の方・職員みな笑顔溢れる複合施設を目指して」と題して法人としての福利厚生制度の取り組みや複合施設「ふらつと月ヶ瀬」における地域や利用者・家族を巻き込んだ取り組みを発表しました。

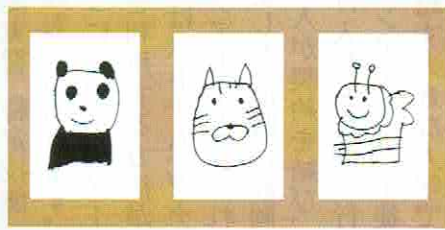
主な取り組みの発表内容

- ① 新人への指導（トレーナー制度の導入）
- ② 階級別研修制度
- ③ 研究発表大会・勤続表彰の実施
- ④ 全職員対象の接遇研修
- ⑤ 脳ドック・健診への助成
- ⑥ 出産育児金・職場復帰金の支給
- ⑦ 奨学金返還手当の支給
- ⑧ ランチミーティングの実施
- ⑨ 複合施設での高齢者、障がい者、園児、地域の方々との交流



アールブリュット ~Fe 画伯の表現~

令和元年十一月、三島市にある日清プラザ（イトーヨーカドー三島店）にて、アールブリュット展「天然の表現者」地域の中の障がいアールブリュット展が開催されました。芸術家は美術学校などで様々な技法を学んだ人になるものとは限りません。今までの技法や枠組みにとらわれない、自由な表現の中にこそ芸術があると世界中で注目されています。



もくせい苑からはFe（鉄の元素記号）画伯こと、石井鉄兵さんが出展しました。これまで得意な作業を見つけたために、様々なことにチャレンジする中で出会った絵は、彼を夢中にさせました。動物や人の絵を中心に、左利きで器用に作品を作り続けるFe画伯

私たちは人の顔を描く時はたいてい輪郭からですが、目や鼻から描きはじめるなど、一味違った独特の手法から、愛らしい絵が生み出されます。今回の展示会への出展にはご家族からも「とても嬉しい」との声が聞かれました。



さて、そんなFe画伯のイラストをバッグや小物などに商品化しようというプロジェクトも進行中です。現在は試作を重ねている段階ですが、いずれ新しい機械が導入されれば、本格的に始動する予定です。ゆくゆくは素敵なカフェとコラボして、皆さんの手に取ってもらう日を来ることを期待しています。



もくせい苑

愛鷹で映画の上映会



「認知症になっても安心して暮らせる地域」を目指して、認知症に関する知識の普及・啓発を行い、認知症の理解者を増やしていく事は、地域包括支援センターの大切な仕事の一つです。当センターでは、地域の皆様に「認知症ケア」や「ご本人・家族の思い」を知っていたく機会として、1月18日（土）に愛鷹地区センターでドキュメンタリー映画の上映会を開催しました。

映画「ほけますから、い」は広島県呉市が舞台です。87歳の認知症の母親を95歳の父親が支える「老老介護」の生活を東京で映像の仕事をしている一人娘の信友直子さんが、帰省の都度カメラに収めたものが映画になり、現在は全国で自主上映会が行われています。映画の中では、認知症の進行の様子、介護・医療関係者のかかり等とともに、病気に直面したお母様の苦悩、支えるお父様の覚悟、娘様の揺れる

気持ち等、当事者の思いが深く描かれています。当日は雨天にもかかわらず、午前・午後の二回の上映で百十名の来場があり、その三分の一がご夫婦で鑑賞して下さいました。笑いあり、涙ありで、鑑賞後は「胸がいつばいですぐに帰れない！」と併設のカフェのコーヒーを飲みながら、感想を話し合う方が大勢いらっしゃいました。アンケート等から、多くの方が「自分事」として自分や家族、地域について思いを馳せて下さった事がスタッフ一同とても嬉しく、またこのような機会を作っていきたいと思っています。



あしたか地域包括センター

あしたかホーム / みはるの丘浮島

地域の防災訓練でAED講習を実施

令和元年度、あしたかホーム、みはるの丘浮島では、各施設近隣の地域防災訓練において、AED（自動対外式除細動器）講習を実施しました。

あしたかホームでは、沼津市地域防災訓練の実施に伴い、自助・共助の防災意識の高揚を図るために、松見台地区の住民約六十名とあしたかホームデイサービス棟において救命救急訓練を行いました。訓練の重点目標として、救急車が現場に到着するまでに要する時間程度で心肺蘇生法を行うことが出来ること、AEDについて正しく理解し、使用することが出来ることを設定しました。



住民の方からは、「小さい子供の場合はどうしたら良いか?」「ベースメーカーをつけている人はどうしたら良いか?」など質問があり、多くの方が熱心に取り組まれています。



みはるの丘浮島では、浮島地区総合防災訓練に参加しました。これは、当施設が福祉避難所に指定されており、災害時に地域の方と連携しながら対応するために、防災訓練時に交流を重ね、今後共同での訓練も開催することを念頭に、おいて始めた取り組みです。

今年度も地域住民に、AEDの使用方法について、どういう場面で使用するものか理解いただき、緊急時に速やかに使用できるようにパネル等を用いて説明させていただきました。

今後、地域住民と交流を重ね、より地域に信頼されるよう災害に備え、取り組んでいこうと考えています。

高尾園

地元消防隊との合同模擬演習

令和元年十月六日（日）、高尾園にて、地元消防団金岡方面隊と沼津北署消防隊による合同模擬演習が行われました。

高尾園厨房より出火した事を想定し、施設利用者は、非常口、スロープを使用してグラウンドまで避難をしました。北署消防隊は、火点である厨房への放水を想定しながら突入し、消火活動を実施、地元消防団は、玄関から突入して傷病者の救助を行いました。

訓練中は発煙筒で煙を出し、会場内にも救護所を設け、AEDや応急救護の演習、救急隊到着後病院へ搬送する等の実践的な訓練が行われ、緊迫した環境の中で訓練を行うことができました。

今回の訓練を通し、有事の際には、地元、近隣の消防団が協力してくださり、頼れる存在があることの安心感を改めて実感しました。



プレーゲおおひと

地域防災との連携

昨年の大型台風や東海トラフ地震、火災など近年では大規模災害への備えが必然となっています。プレーゲおおひとでは災害・防災対策の一環として、近隣住民の皆様とともに地域防災の重要性を踏まえた総合防災訓練を実施しました。今回の防災訓練は、地震の発生により火災が発生したことを想定した通報・避難誘導訓練です。当日は参加者全員に対して災害発生時刻の予告はなく、突然の地震及び火災の発生を想定しての訓練として、突発的な災害による参加者の動向や対応の確認が行われました。当日参加いただいた地域の皆様はプレーゲおおひと内の地域交流室を使用していただいたの想定により一次避難場所・二次避難場所等の確認や周辺住民との連携の仕方などについて話し合われていました。また利用者及び訓練に参加いただいた地域の皆様の避難誘導では、地震発生にもなう室内での待機、火災発生による屋外への避難など適切かつスムーズに行われ、これまで施設職員が主体で実施されてきた避難誘導訓練の成果が表れていました。

避難訓練終了後には水消火器を使用する初期消火の重要性を再認識していただきました。参加者は消火器の使用手順や火点に向けての放水の仕方など、普段体験できない消火作業を体験することにより更なる防災意識の高揚を図っていただいたようです。

ボランティア紹介

生きがい友の会



毎年年末になるとハンドベルの綺麗な音色が聴こえてきます。生きがい友の会の皆様による演奏会は伊豆中央ケアセンターにとっては恒例の行事になっています。生きがい友の会は伊豆市を中心にボランティア活動をする団体に総勢百二十名の会員がおり、十五部門に分かれて活動しています。今回はその内三部門二十三名の方に来て頂き、大石光男様夫



妻と雀声(じゃくせい)会によるクリスマスソングや昔なつかしの歌を息の合ったハンドベルの演奏、老取(おどり)の会による沖縄民謡のすてきな踊りを披露していただきました。大石様からハンドベルは教会にある大きなベルを自分たちで奏でてみたいという思いから誕生したという起源のお話をされていました。生きがい友の会の皆様には伊豆中央ケアセンターをはじめ、ふれあいデイサービス、天城デイサービスそして北狩野ケアセンターと同様に演奏会を披露していただき、伊豆市の春風会の施設を盛り上げてくださっています。



介護者家族の声

ブレイゲあしたか小規模多機能では、利用者が住み慣れた自宅や地域での生活を続けていけるよう、地域の資源を利用しご家族との連携のもと、通い・訪問・宿泊などの多様なサービス支援を行っております。

本年度、ご家族が日頃不安や負担に思っていることを知る為、また、ご家族同士や職員との交流の場を作る目的で家族介護者交流会を開催いたしました。

本年度中に二回の開催を予定し多くのご家族に参加して頂けるよう、平日と休日の二日間に分けて開催することに致しました。十一月下旬と十二月上旬に第一回目が開催され、日頃私たちが知り得なかった利用者の自宅の様子やご家族が抱えていた思いを知ることが出来ました。以前に利用されていたご家族も参加され悩みを職員へ話して楽になれた為「もっと早く職員へ



話せていたら良かったかもしれない」「職員へどこまで話していたか分からずなかなか話せなかった」とのお話があり、ご家族が抱えている悩みや不安に私たち職員が気づき支えていかなければいけないことを改めて実感致しました。また、あるご家族からは「以前、別の施設を利用していましたがこちらに来て安心して利用が出来る」とのお言葉を頂くことも出来ました。現在、小規模多機能は毎月開催している「ほっとcafe」や季節の行事など様々なイベントを行っておりご家族へも積極的に参加の案内をさせて頂いております。職員とご家族との交流の場を増やし今後ご家族との連携を密に取り利用者へのより良いサービスの提供を心掛けて参ります。

沢田小児童・ぽっぽ園児との 交流芋掘り大会

令和元年十一月五日、毎年恒例となつて
いる沢田小学校三年生との芋掘り大会が行
われました。これは、沢田小学校との交流
行事の一環として行われており、高尾園の
農業班『かかしクラブ』が畑で育てたサツ
マイモを、沢田小学校の生徒達に収穫体験
をしてもらい、交流を深めようという取り
組みです。小学生に畑へ入ってもらい、土
を掘って芋を探してもらいました。芋の中
にはなかなか取れない芋もあり、小学生が
かかしクラブの方々と協力して芋を収穫し
ていました。

また、十一月九日には、企業内託児所ほ
っぱを利用者されてる親子が、芋掘り体
験をしました。家族揃って芋掘りをし、芋
を見つけて掘って収穫すると、子供達からは
自然と笑顔がこぼれていました。
芋掘りに参加した利用者からは、「毎年
子供たちと芋掘りを行っているが、みんな
で一つの作業を行っている事が楽しかった。」
と話され、喜ばれていました。



浮島サロンにて 介護の日イベント開催

地域の方に、施設のことや、介護の事
を知って頂きたいとの思いから、平成三〇年
度は「介護体験スタンプラリー」を開催。
体験を通してお年寄りの生活、介護の仕事
について紹介しました。今年度は、浮島地
区社協共催でサロン活動日に「介護の日特
別講演『足腰じょうぶのキメテは筋肉』」
と題し、地域に向いてのイベントとしま
した。普段の活動に参加されていない方も
来場して下さり、講演・体操・試食の盛り
沢山の内容に、多くの方から好評を頂きま
した。また、アンケートから「高齢者が気
軽に行ける食堂・居場所を作って欲しい」「人
に会えることが良かった」との意見があり
今後の福祉サービスに反映できるヒントも
頂きました。地域に頼られる施設であるよ
う努めていきたいと思えます。

こども食堂を開設

令和元年十月より「こども食堂」を開設
しました。

十月五日にプレオープンし、毎月第二・
第四土曜日の午後四時から七時の時間帯で
行っています。「こども食堂」は、働く親
御さんを応援し、地域のこどもたちが気軽
に参加でき、皆で楽しく食事できる場所を
提供して、食事を通して地域のこどもたち
を見守っていくことを目的としています。
また、北狩野ケアセンターの利用者と行事
を通じて交流できたらと考えています。

地域の方からお米や野菜など家庭で余つ
ている食材を寄付していただき、メニュー
を考え厨房職員が美味しい食事を作ります。
地域のボランティアさんたちは会場準備・
配膳・片付け等を担当しています。

友達同士や家族で来る方、回数を重ねる
毎、ママ友たちのくちこみにより、市外か
ら来てくれるこどもたちは増えていきます。

十二月は、焼
き芋大会・クリ
スマスケーキ作
りのイベントを
楽しんでいただ
きました。

「美味しかった。
また来ます。」
と笑顔で帰って
行きます。



なかいず認定こども園／花育教室

草花に触れ、育てる体験をすることで優しい心を育むことを目的に花育教室を行いました。

花育の説明を受けたゆり組（年中）の担任が講師となり、年中児が寄せ植えに挑戦しました。

初めに、ピオラ・金魚草・シロタエギク・アリッサム・ハーブの中から好きな色の花や種類を選びました。「この花ほんとに金魚みたい。」「これはりんごのにおいがするよ。」「ハーブの葉っぱふわふわだよ。」といろいろなことに気付き、五感を働かせて選んでいました。ポットを逆さにして苗を取り出し自分の鉢に並べ、花の配色や苗の高さを考えながらシャベルで培養土を足していきました。

きれいに並んだ寄せ植え



を眺めて「お花屋さんみたいだね。」と喜んでいました。卒業式に年長さんに花の道をつくってあげようと、張り切って花がら摘みや水やりをして大切に育てています。一人一鉢の寄せ植えをつくることで「自分のお花」ができ、植物の変化や生長に関心が生まれ、植物をより身近に感じているようです。



あまぎ認定こども園／「サンタクロースがやって来た！」



12月19日。今日は子ども達が楽しみにしていた「クリスマス会」。まずは先生たちの寸劇を楽しんで、いよいよハイライト、サンタクロースの登場です。

この日のために、はるばる北欧はフィンランドからトナカイに乗って来てくれました。

子ども達からは「なぜ道に迷わないで来られるの?」「鍵がないのにお家には入れるのはなぜ?」等の質問。

そして、子ども達は何より楽しみにしていたプレゼント。綺麗な袋に入ったプレゼントを大切に抱えながらサンタさんとカシャ。

最後はお返しに子ども達から歌のプレゼント。

サンタさん、来年も来てね!



●春風会法人本部・福祉課あしたかホーム
〒410-0302 沼津市東椎路1742-1
TEL(055)967-1166(代) FAX(055)967-3566

●特別養護老人ホーム伊豆中央ケアセンター
〒410-2402 伊豆市大野304
TEL(0558)72-8111(代) FAX(0558)72-7297

●特別養護老人ホームめぐもりの里
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-29
TEL(0558)76-6700(代) FAX(0558)76-7511

●特別養護老人ホームみはるの丘浮島
〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL(055)969-3355(代) FAX(055)969-3385

●障害サービス 生活介護 沼津虹の家
〒410-0302 沼津市東椎路1742-1
TEL(055)967-2220(代) FAX(055)967-3566

●障害サービス 生活介護 あおばの家
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-429
TEL(0558)76-6702(代) FAX(0558)76-6702

●障害サービス 就労継続支援B型 もくせい苑
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-47
TEL・FAX(0558)76-6755

●原高齢者福祉センター
〒410-0312 沼津市原1200-3
TEL(055)968-4510(代) FAX(055)968-4511

●ふれあいデイサービス(デイサービス一般型)
〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL(0558)83-3380(代) FAX(0558)83-3380

●天城放課後児童クラブ
〒410-3213 伊豆市青羽47
TEL(0558)87-1080

●中伊豆放課後児童クラブ
〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL(0558)83-2911

●救護施設 沼津市立高尾園
〒410-0001 沼津市足高156-1
TEL(055)921-5722(代) FAX(055)921-5723

●ケアハウスはるかぜ
〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL(055)969-3382(代) FAX(055)969-3383

●小規模多機能施設 北狩野ケアセンター
〒410-2401 伊豆市牧之郷116番地
TEL(0558)72-8811 FAX(0558)72-8860

●地域密着型特別養護老人ホーム プレীগあしたか
小規模多機能型居宅介護支援事業所
〒410-0302 沼津市東椎路1639-1
TEL(055)967-3400(代) FAX(055)967-3401

●地域密着型介護老人福祉施設 プレীগおおひと
〒410-2318 伊豆の国市白山堂408-9
TEL(0558)76-7300 FAX(0558)75-7299

●障害サービス ケアホーム なぎの家
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-437
TEL(0558)77-1017

●地域活動支援センター サポートセンター絆
〒410-2315 伊豆の国市田京1259-893
TEL(0558)77-1221

●複合施設 ぷらっと月ヶ瀬
〒410-3215 伊豆市月ヶ瀬408-1

●あまぎ認定こども園
TEL(0558)85-2030 FAX(0558)75-8201

●あまぎデイサービス(デイサービス一般型)
TEL(0558)85-0816 FAX(0558)75-8201

●就労継続支援B型 事業所 プラム(障害サービス)
TEL(0558)85-1919 FAX(0558)75-8201

●プラムカフェ
TEL(0558)85-2551 FAX(0558)75-8201

●片浜・今沢地域包括支援センター
〒410-0874 沼津市松長12-3
TEL(055)969-7050 FAX(055)968-2177

●伊豆市修善寺地区地域包括支援センター
〒410-2413 伊豆市小立野66-1 修善寺生きがいプラザ
TEL(0558)99-9301 FAX(0558)99-9302

●なかいず認定こども園
〒410-2505 伊豆市八幡282-1
TEL(0558)75-2810 FAX(0558)75-2811

●はら居宅介護支援事業所
〒410-0311 沼津市原町中2-7-11
TEL(055)941-8333 FAX(055)941-8334